

お茶の文化が息づいている山城地域

宇治田原町 UJITAWARA-CHO

日本緑茶発祥の地 宇治田原

宇治田原は日本の茶処・宇治を支えるお茶の一大生産地です。昼夜の激しい気温差や宇治川の清い流れなど茶生産に適した気候風土を生かし、茶農家の努力により良質茶が栽培されています。鎌倉時代に大福谷で茶畑が拓かれ、お茶の味が優れていたため早くから中宮や将軍に献上されるようになり、江戸期に湯屋谷の茶農であった永谷宗円が現在の美しい緑色の煎茶づくりの原点となる「青製煎茶製法」を伝えたことなど、お茶にまつわる歴史と伝統が息づいています。

さらに詳しい情報は
こちらへアクセス



和束町 WAZUKA-CHO

茶源郷が育てたほんまもんのお茶「和束茶」

和束町は、聖武天皇によって造営された恭仁京と紫香楽離宮を結ぶ街道として開け、禁裏御料地として奈良東大寺等の寺社建築用材の用達地として栄えました。町の中央部を和束川が流れ、標高686.7mの鷲峰山を最高峰に町のどこからでも茶畑が望める長閑なまちです。和束町は気象的、土壌的に恵まれた条件を生かし、古くから香りの高い高級煎茶を栽培し、現在も宇治茶の45%以上を生産する宇治茶の生産地です。和束茶の味と香りは、町の誇りとなっています。

煎茶の郷「和束」を未来へ継承する豊かな自然環境のなかで、「求められるお茶、選ばれるお茶づくり」を進めています。

さらに詳しい情報は
こちらへアクセス



南山城村 MINAMIYAMASHIRO-MURA

宇治茶のふるさと 京都・南山城村

南山城村は、宇治茶の生産地として古くから『煎茶』栽培を続けており、茶生産量は京都府内の27%（2位）を占めています。

お茶栽培に適した気候と土壌に恵まれた南山城村では、この地域特有の香り高い煎茶やかぶせ茶などを生産しており、全国や関西の茶品評会では普通煎茶の部で農林水産大臣賞を受賞、また、京都府茶品評会では産地賞を13回連続で受賞しているなど、良質なお茶づくりに自信と誇りがあります。

さらに詳しい情報は
こちらへアクセス

